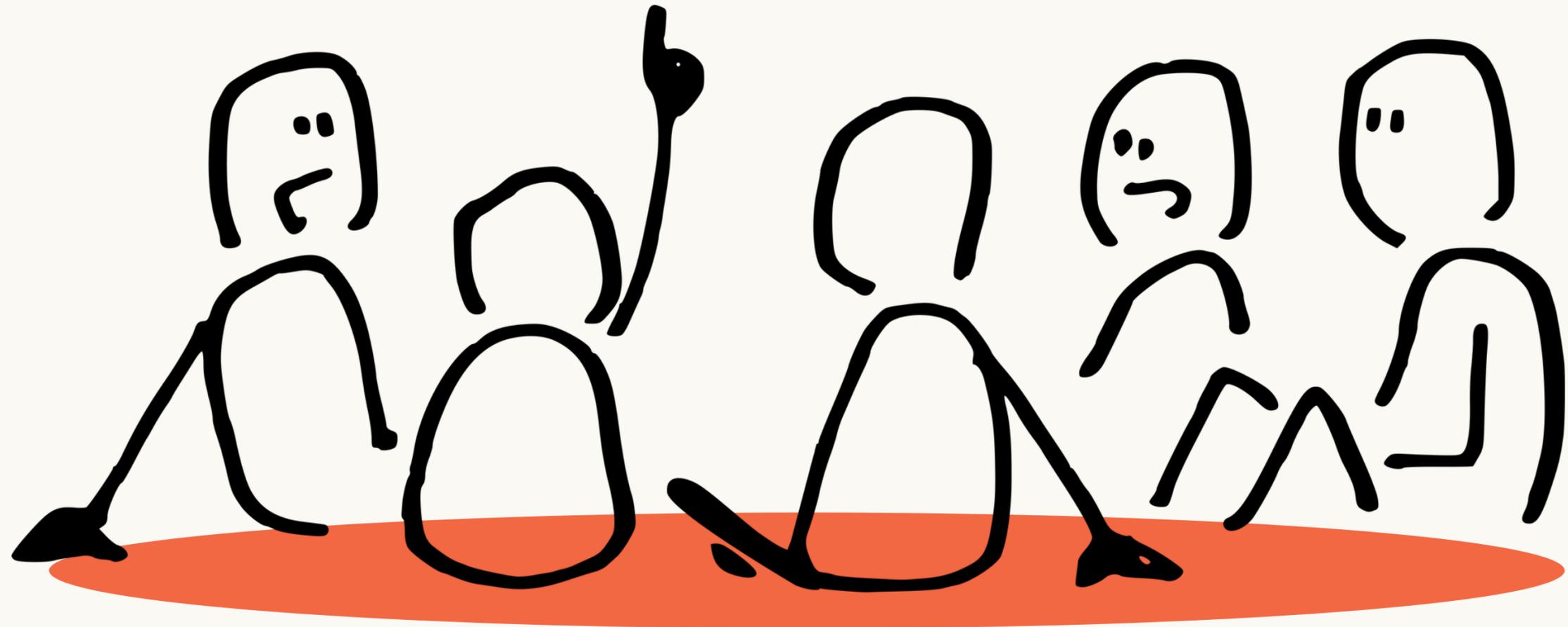


隣国の運動から考えたい 連帯する正義の運動



2025年7月21日 川崎彩子

川崎 彩子（かわさきあやこ）

- 2021年春から現在に至るまで、気候正義を求める若者中心の運動 Fridays For Futureのメンバー
- 2024年8月に提訴された若者気候訴訟の原告としても活動
- 今年4月より原子力資料情報室スタッフ



お話しすること



➔ 気候正義とはなにか？

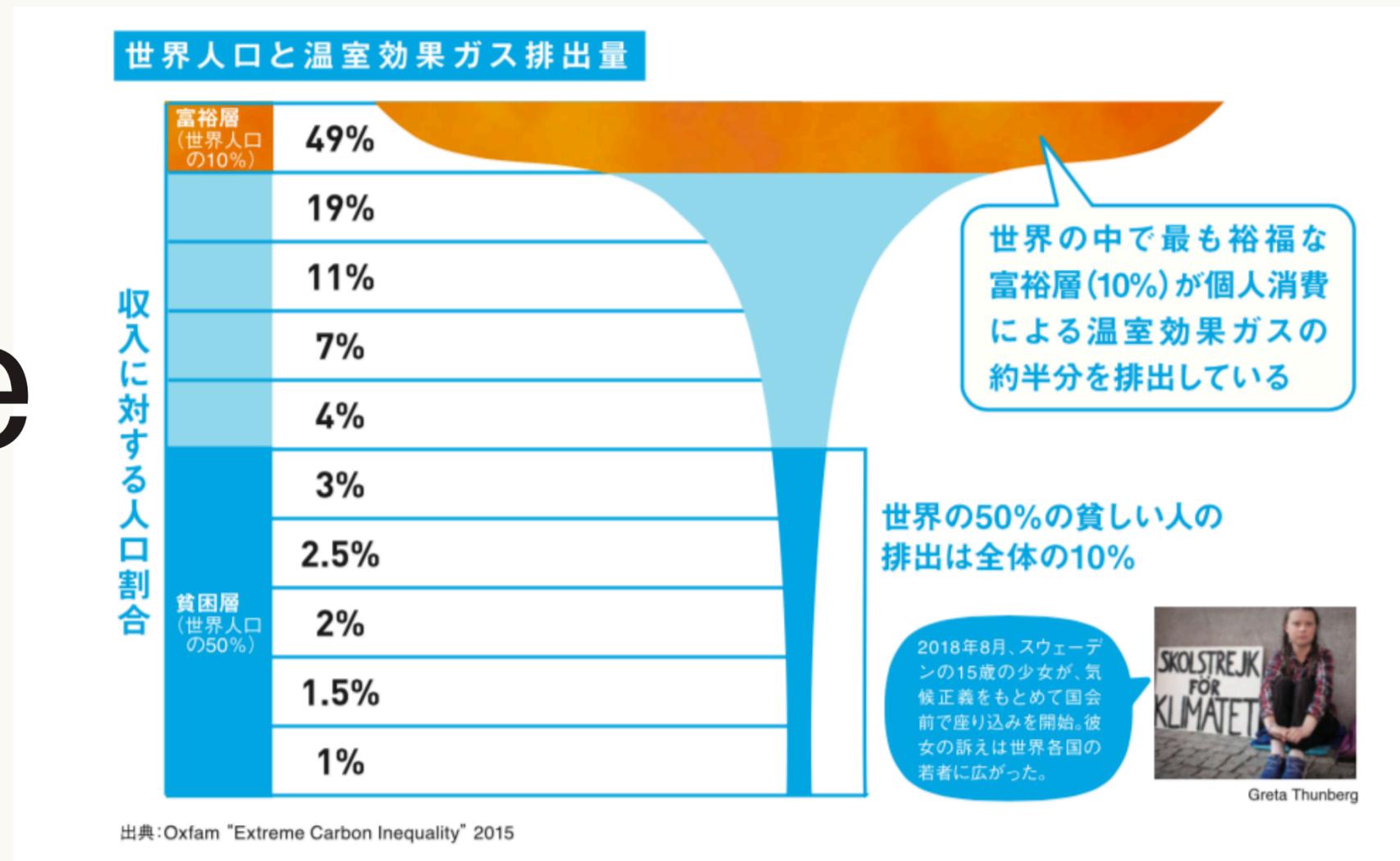
➔ 気候正義に不可欠な交差性の視点
交差性とは
交差性と社会運動

➔ 交差するアクションとは？
パレスチナ連帯アクションと
韓国の気候正義行進から

➔ 韓国の気候正義行進から
労働者との連帯、自分の言葉で表現

➔ 日本の運動を考えるための問い

気候正義 Climate Justice とは何か



気候危機は不公正な社会のもとに起こり、不公正さを加速させる

FoE Japan 「Climate Justice (気候正義) とは」 より

少数の裕福な国や人々が化石燃料や原発などのエネルギーを大量消費し、持続可能でない経済発展を押し進めて来た事で気候危機が悪化。

また、気候危機の影響は平等ではない。社会的に弱い立場の人びとと地域（マイノリティ）に、より早く、大きな被害を引き起こす。

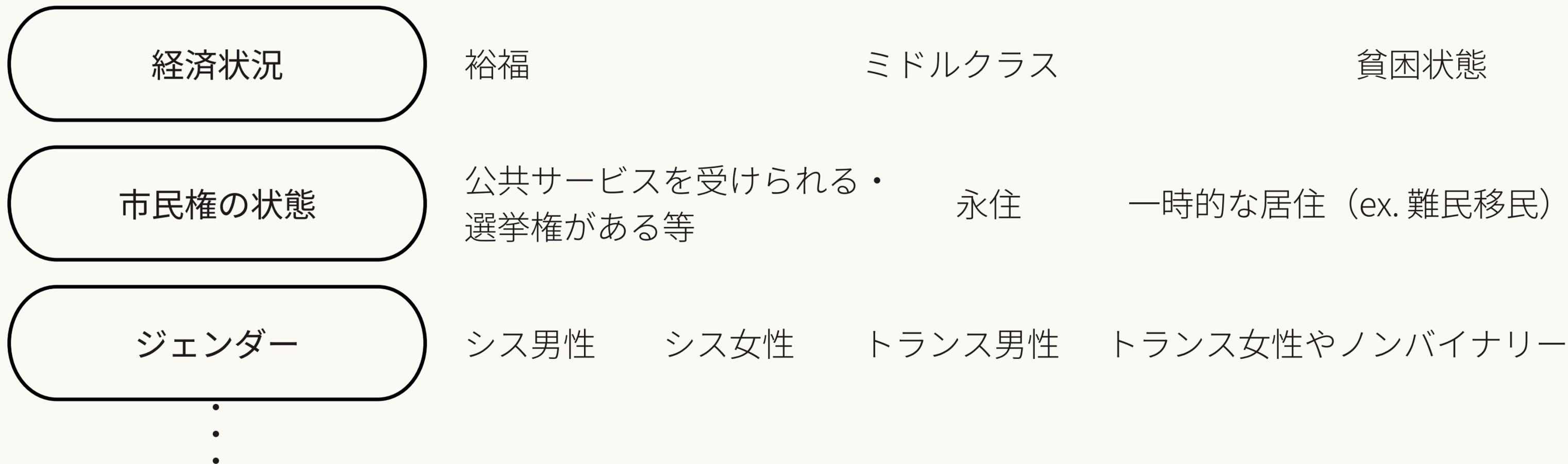


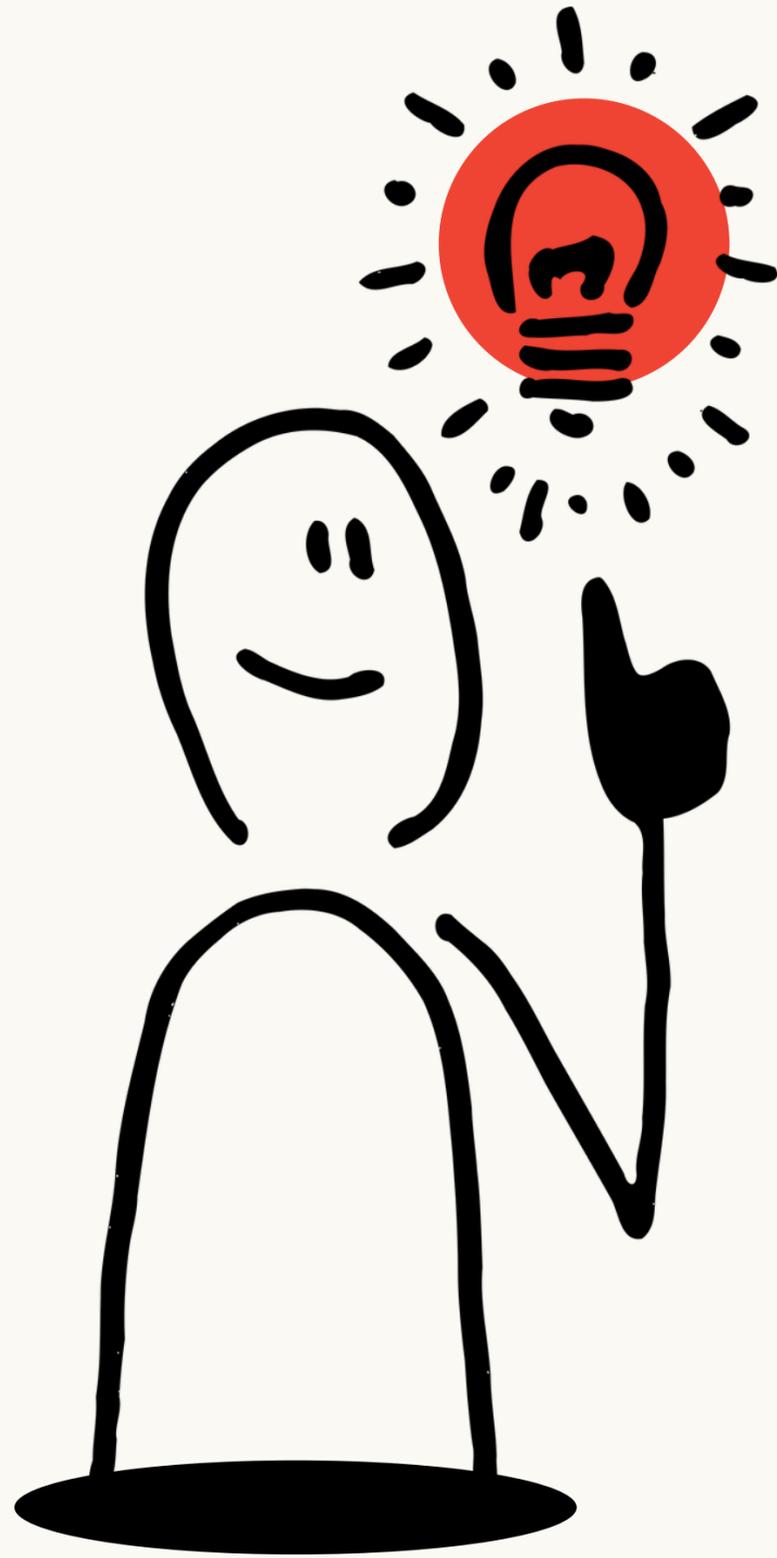
インターセクショナリティ

交差性 intersectionality

私たちは、いくつものカテゴリーにまたがって存在（例：男性であり、移民であり、障害のない…）
交差性は、問題が、どのように人びとに直面しているのかを分析するツールともいえる。

社会の（気候危機に限らない）様々な抑圧や差別の受けやすさ





交差性による分析で社会を
理解することが、
こうした現実を解体するた
めの社会運動を創る必要性
を強調する

交差する問題を切り離さず 声を上げる

2024年3月、FFF Tokyoと「〈パレスチナ〉を生きる人々を想う学生若者有志の会」で「ガザも地球も泣かないで」を開催。島じまスタンディングや気候科学者も参加

数世紀にわたる植民地主義の結果、たえがたいほどの不正義を背負わされたガザ・パレスチナ。また、植民地主義と、自然や人びとから搾取する資本主義的文化が、気候危機をもたらしてきた。

植民地主義の解体のために連帯し、「占領された土地に気候正義はない」と訴えた。



実際に参加した
韓国の気候正義
行進から



自分の言葉で表現



周りを見渡すと、韓国語であふれていることに気づく。

- 国内のナラティブが重要視されているのではないかと
- 参加者が自分たちの言葉で気候正義を表現することができるのではないかと

エネルギー労働社会ネットワークの宣言文から

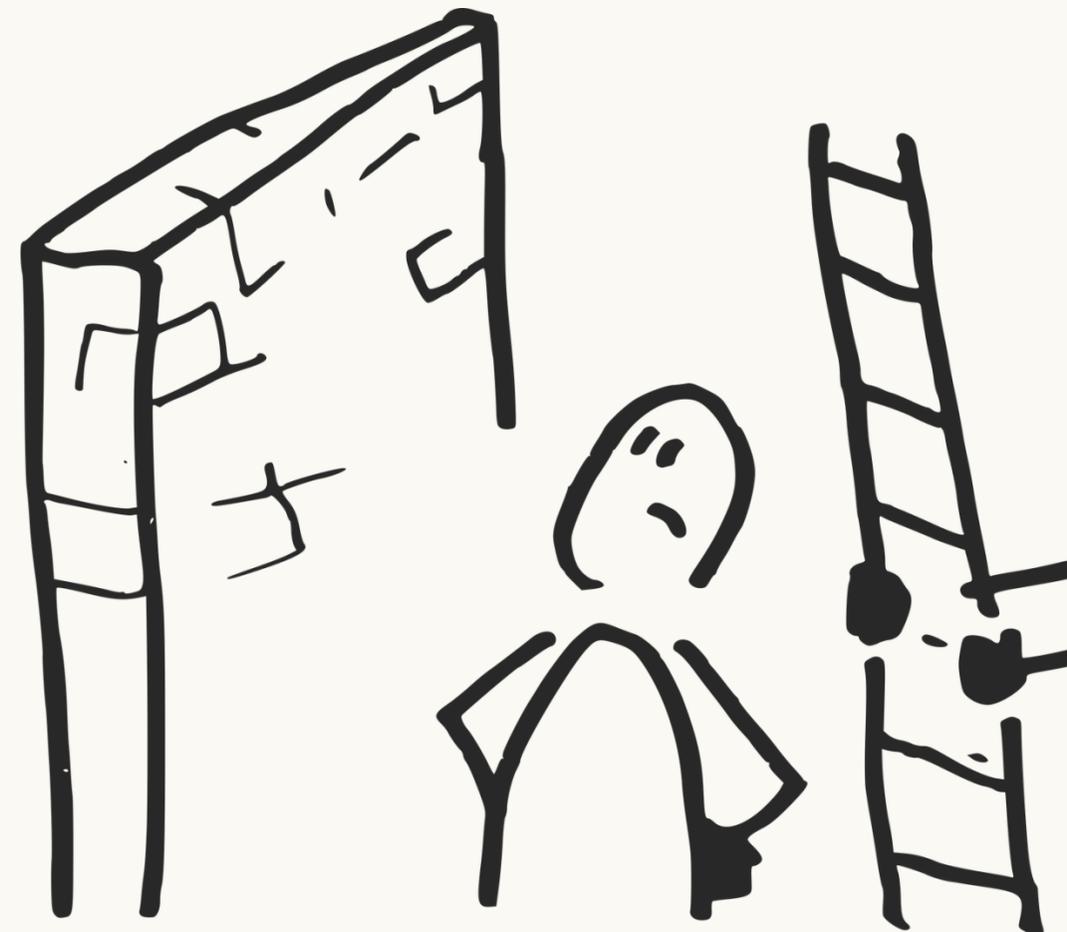
- 「時には山地と農村漁村を破壊し、農民漁民を追い出す再生可能エネルギー乱開発が発生
- 「略奪的な転換」によって「化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が労働者には失職の恐怖と労働の質の悪化であり、暮らし自体を脅かす現実近づいている」



労働者の連帯

日本の運動を考えるための 私の問い

- 誰の声が聞かれていないのか（特権性と交差性で捉える）
 - 気候危機で「若者」ばかりに目を向けていない？
 - グローバルな視点だけでなく、国内のナラティブも
- 私たちは、自分たちの言葉で問題を語れているか
 - 気候危機がどのように格差の問題として存在しているか、社会には他にどんな問題があるか話し合ってきたか
 - 「なぜ何のために連帯するのか」を考えられているか



ご清聴ありがとうございました

